

(別紙)

大臣認定構造計算プログラムの利用上の不具合等について

プログラム名：SEIN La CREA 認定版／RC

大臣認定番号：SPRG-0001-02

大臣認定年月日：平成20年4月30日

報告 番号	不具合の内容	影響の範囲 (当該不具合により影響が生 ずるおそれのあるケース)	影響の度合い
1	鉄筋コンクリート造の耐力壁の付帯柱の断面検定で、耐力壁をモデル化した壁柱の曲げモーメントからの付加軸力を計算する際、正負の符号が適切に考慮されておらず、常に負の符号（引張力）として読み込まれていた。	鉄筋コンクリート造の建築物で耐力壁をモデル化した壁柱からの付加軸力を考慮した場合	本不具合は、許容応力度計算において、付帯柱の圧縮側の付加軸力を小さく評価する不具合である。壁柱の曲げモーメントからの付加軸力を考慮する際に圧縮側となる付帯柱の設計軸力を過小評価するため、圧縮側の付帯柱の軸力が許容耐力以内であることを確認する必要がある。しかし、通常の耐力壁の場合には、付帯柱の断面が付加軸力の圧縮側作用時に決まる場合は少ないため、不適合となる場合は極めて少ないと考えられる。なお、本不具合は、保有耐力計算には影響のない不具合である。

プログラム名：SEIN La CREA認定版/S

大臣認定番号：SPRG-0002-02

大臣認定年月日：平成20年4月30日

報告 番号	不具合の内容	影響の範囲 (当該不具合により影響が生 ずるおそれのあるケース)	影響の度合い
1	鉄骨造のはりの曲げ許容応力度の算出用座屈長さ係数 $\theta_y$ を直接入力した場合、それが適切に考慮されておらず、 $\theta_z$ の入力として読み込まれていた。	鉄骨造のはりの曲げ許容応力度の算出用座屈長さ係数 $\theta_y$ を直接入力した場合	間柱やK型ブレース等が大梁に取り付くことにより、大梁が2つの梁部材に分割され、かつ、その部分に小梁などの横座屈を防止できる材が取り付いていない場合は、危険側の計算になる可能性があるため、間柱やK型ブレース等が大梁に取り付く部分に横補剛材があることを確認する必要がある。 しかし、そのような部分には通常横補剛となる材が配置されるので、この不具合により影響を受けるケースは極めて少ないと考えられる。